

- ① 平成24年 8月 閣議決定
- ② 平成24年11月 計画部会フォローアップワーキングチーム第1回会合
 - ・ フォローアップワーキングチーム会合の進め方
 - ・ フォローアップの実施方針、実施計画策定に向けた論点
- ③ 平成25年 1月 計画部会フォローアップワーキングチーム第2回会合
 - ・ 中央道笹子トンネル事故の報告等
 - ・ 社会資本整備重点計画のフォローアップの進め方について
- ④ 平成25年 5月 第28回計画部会
 - ・ 社会資本整備を取り巻く最近の動き
 - ・ 第3次社会資本整備重点計画のフォローアップの進め方について
- ⑤ 平成25年10月 第29回計画部会
 - ・ 第3次社会資本整備重点計画のフォローアップ(試行)について

	主な意見	見直しの方向性
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会の課題や国民の困っていることへの対応が分かるようにすべき ② 目標と施策の関連性を明確にすべき 	<p>重点目標ごとに、事業横断的な政策パッケージを設定し、その上で、現状と課題、中長期的な取組方針、重点施策やその進捗の成果を表す指標について、一連のストーリーとして、わかりやすく体系化して提示する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ① 現計画の指標が、本当にこれで良かったのかどうかということは作り直す時に検討すべき ② 現時点でどのような機能が必要か、あるいは、将来的にどのような機能が必要かを睨みつつ、アウトカムを設定することが必要 ③ 指標の意味や定義をはっきりさせるべき 	<p>指標の設定にあたっては、以下の点について、整理・検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標の定義 ✓ 目標値設定の考え方 ✓ 目標達成に向けた前提条件や制約条件 ✓ 過去の社会資本整備重点計画での位置づけ ✓ (継続指標について)進捗状況
3	<ul style="list-style-type: none"> ① 指標は理屈も大事だが、数値の安定性、信頼性が重要 	<p>指標の設定にあたっては、データの取得状況等を十分踏まえ、安定性、信頼性の向上に努める。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ① フォローアップにあたっては、成長戦略と国土交通省の政策を結びつけていくことは重要 	<p>成長戦略と国土交通省の政策を結びつける観点から検討に努め、次期計画に適切に反映。</p>

	主な意見	見直しの方向性
5	<ul style="list-style-type: none"> ① 指標の設定や評価の方法は、専門的な世界であり、専門的な小グループを作って集中的に指標を検討すべき ② 分野によって議論・分析すべきことは違うため、計画部会では共通性の高いものを議論・分析すべき ③ 重点目標を構成する個別の指標は、関連部局が集まって事務的に議論し、それを計画部会に報告した上で、議論すれば足りるのではないか。 	<p>共通性の高い分野については、計画部会において御議論頂く。各分野(道路、河川、港湾等)に関する指標案については、専門家の意見を聞いた上で作成する。その上で、計画部会において御議論頂く。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ① ハードとソフトの連携という割に、具体的にソフト施策の推進に係る指標がほとんどない。ハードとソフトが相互に絡み合っている部分について、ソフトが出てくるように検討すべき。 	<p>ハードとソフトが連携した指標の設定に努める。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ① 重点計画である以上、分野横断的な視点が必要であるが、横串の指標がないので、その視点での取組が必要。 	<p>横串の指標(分野横断的な指標)の設定に努める。</p>

	主な意見	見直しの方向性
8	<ul style="list-style-type: none"> ① 供給側のアウトプットを需要側のアウトプットに変換することで、アウトカムの代替案とすることが可能 ② アウトカム指標の設定が困難な部分についても、可能な限り代替案を検討すべき 	<p>需要側の視点にたったわかりやすい指標(国民生活、経済社会がどう変わるかを、よりイメージできる指標)の設定に努める。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ① 計画には本来必要な予算を明記すべきであるが、できない現状では、バリューフォーマネーを評価し、基礎的な数値を足し上げることで、重点計画の達成にどの程度の予算が必要かを示すことが重要であり、事業量を推測できる指標とすることが重要 	<p>計画期間中における進捗見込みや指標を示すとともに、そのフォローアップを行うことで、PDCAサイクルの確立、計画の実効性確保に努める。</p>